

別添 平成30年度飼料用米多収日本一 中国四国農政局長賞 受賞者の概要

「地域の平均単収からの増収の部」受賞 坪井 翔伍(広島県福山市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
北陸193号	約7.3ha	715kg/10a	192kg/10a (523kg/10a) [※]

※作柄調整後の地域の平均単収

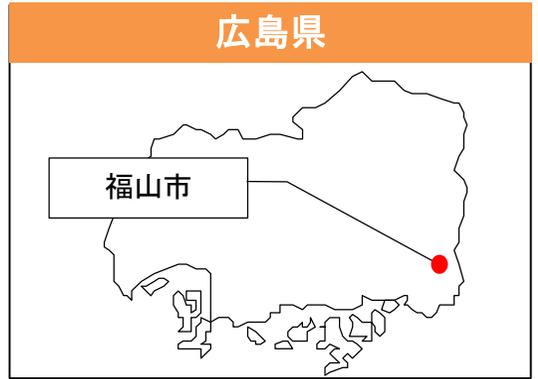


【経営概況】

- 経営主体は本人。
(繁忙期には臨時的に雇用)
- 地域の休耕田を引き受け、農地を有効活用すべく、平成28年度から認定農業者として経営を行っている。

【作付品目】

- 主食用米
あきさかり 0.5ha
- 飼料用米
北陸193号 7.3ha
- 野菜
キャベツ、ほうれんそう 0.3ha



【取組のきっかけ】

- 地域では、高齢化によって多くの農業者がリタイアし、休耕田が増加している。このような農地を有効に活用するため、平成28年から実需者との協議により、飼料用米を「北陸193号」で取り組んでいる。

【取組概要】

- 生産コスト低減を図るため、①植栽密度を地域の慣行60株/坪から37~45株/坪(条間30cm)に減らす疎植栽培により、資材費、労働力を低減。②基肥に緩効性肥料を側条施肥で投入、追肥に安価な単肥(尿素)を水口から流し込み施肥を行うことで労働力を軽減。③病虫害防除剤の苗箱処理剤の使用と、除草剤の移植時同時散布により労働力を軽減。④肥料等については、JA等から大規格の低コスト資材を導入するなど資材費を低減。⑤実需者へ乾燥粳を直接フレコン出荷することで調製経費、包装容器代の削減、等の取組を実施している。
- 生産性向上の取組として、土壌成分分析と、コンバインに収量センサーを導入し圃場毎の収量把握を実施することで、土壌改良剤や施肥投入の設計見直しを行い収量向上につなげている。
- 県等関係機関との連携強化と、土壌成分分析と圃場毎の収量把握による施肥設計に加え、田植機にGPSを搭載することで過剰な肥料散布を無くし、稲の均一な生育を促すことにより更なる生産性向上を目指すこととしている。